

介護福祉士養成施設協会 教育力向上委員会

# 利用者理解を深める動画教材作成の取り組み

領域: 「介護」「こころとからだのしくみ」をどう講義するか

野田由佳里<sup>1)</sup>, 松田愛美<sup>2)</sup>, 高橋由紀<sup>3)</sup> 松山美紀<sup>4)</sup>, 齊藤美由紀<sup>5)</sup>

1) 聖隷クリストファー大学 2) 神奈川県立保健福祉大学 3) 北海道医療大学  
4) 国際医療福祉大学 5) 日本福祉教育専門学校

## CONTENTS

### I. 趣旨説明

### II. 令和4年度教育力向上委員会が行った

こくみん共済coop<全労済>社会福祉活動等助成事業報告

### III. 令和5年度共同研究で実施した動画作成グループの活動報告

### IV. 令和6年度共同研究で現在行っている動画作成グループの進捗状況

### V. 総括

「介護福祉士養成課程におけるICT化推進」（副題：科学的情報介護LIFEの理解と、科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成）

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 令和5（2023）年4月

## I. はじめに

「介護福祉士養成課程におけるICT化推進（副題：科学的情報介護LIFEの理解と、科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成）」（こくみん共済coop<全労済>2021年度社会福祉活動等助成事業）

### （2）事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、介護福祉士養成課程において、介護施設や在宅介護での従来のような介護実習の実施が困難になっている。そこで、映像教材を作成し、コロナ禍における介護実習にも活用し、介護福祉士養成教育の質のさらなる向上をはかることとした。

### （3）事業内容

検討委員会及び作業部会を設置して検討を行った。検討委員会の委員は、当協会において調査研究事業を担当する教育力向上委員会の委員より選出された。作業部会の委員は検討委員会の委員の推薦により選出された。

科学的情報介護LIFEの体験型演習教材を作成し、感染症蔓延や災害禍、遠隔地（外国人留学生の入国前の事前課題）においても利用でき、介護実習に加え、介護過程・コミュニケーション技術・介護総合演習・生活支援技術など、多様な演習でも活用ができる利用者理解のための教材を作成することとした。

### （4）事業の成果及び活用方法

介護実習、介護過程の展開等に活用できる映像教材を作成し、新型コロナウイルス感染症の影響下での学習にも活用できるようにする。作成した映像教材はオンラインでの視聴が可能な状態にし、広く会員校等において活用できるようにする。また、作成したワークシートを映像教材と併用することにより、学習効果の向上をはかることとした。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下にあつて、教員、学生、介護実習施設の職員、利用者等が安全に指導、学習、実習に携わるための一助とし、介護福祉士養成教育の質の確保をはかることとした。

## II. 委員会委員名簿

検討委員会委員（50音順・敬称略）（○：委員長）

委員氏名	所 属
石岡 周平	町田福祉保育専門学校
志水 幸	北海道医療大学
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部
○野田 由佳里	聖隷クリストファー大学

作業部会委員（50音順・敬称略）

委員氏名	所 属
齊藤 美由紀	日本福祉教育専門学校
高橋 由紀	北海道医療大学
松田 愛美	神奈川県立保健福祉大学
松山 美紀	専門学校新国際福祉カレッジ



## III. 会議開催記録

- (1) 検討委員会（すべてオンライン開催（Zoom ミーティング））8回実施
- (2) チーム会（すべてオンライン開催（Zoom ミーティング））各チームで3回ずつ実施

チーム名	構成員
A チーム	石岡周平、齊藤美由紀、松田愛美
B チーム	志水幸、高橋由紀
C チーム	白井幸久、松山美紀



## IV. 撮影

- (1) 撮影のスケジュール

- ・第1回：令和4年12月1日（木）～3日（土）・3日間
- ・第2回：令和5年1月19日（木）～21日（土）・3日間

## V. 成果物

ワークシートの例 科目名 認知症の理解

<p>【事例の概要】</p> <p>森田 光弘さん（79 歳、男性）、特別養護老人ホームに入所中。</p> <p>主疾患：脳血管性認知症</p> <p>症状他：元々は社会的で自治会長をしていたが、最近、BPSD（暴言・暴力）の出現が目立つようになってきた。</p> <p>シーン1</p> <p>映像の解説</p> <p>15 時、リビングで男性利用者の森田さんが、車いすで右往左往している。そこへ、介護職員が忙しそうに通りにかかる。森田さんはその職員に向かい、「邪魔だ！どけ！」等と怒鳴っている。今日森田さんを担当する介護職員は、そのような森田さんの暴言にうんざりしている様子を描いている。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>森田さんが暴言を吐くのは何故なのか？ 介護職員の感情で利用者进行评估（評価的理解）してしまいがちであるが、そこに留まらず、専門職として利用者の言動に対する理由・原因をしっかりと分析し（分析的理解）、また、分析後は利用者の立場に立ち、共感すること（共感的理解）へと、3つのステップで展開させていくことが重要であることを理解する。また、これらのステップで展開させていくことで、介護職員の認識と対応が変化し、それは利用者の言動の変化に繋がっていくことを理解する。</p>	 <p>映像番号： 暴言・暴力 シーン1 評価的理解</p>
---	---

科目「認知症の理解」ワークシート No.1 No.2 No.3

科目「介護過程」ワークシート No.4

科目「介護総合演習」ワークシート No.5 No.6 No.8 No.9 No.14 No.15

科目「生活支援技術」ワークシート No.7 No.10 No.11 No.13

科目「介護の基本」ワークシート No.12

なお、このデータは、

（公社）日本介護福祉士養成施設協会ホームページ（下記の URL）で公開されています。

URL: [https://kaiyokyo.net/pdf/r5\\_ictka.pdf](https://kaiyokyo.net/pdf/r5_ictka.pdf)

## 令和5年度共同研究で実施した動画作成グループの活動報告

### I. 目的

介護福祉士養成課程で使用する科目間連携と汎用性の高さに着目した映像教材を作成し、コロナ禍で困難になった在宅介護実習にも活用するなど、介護福祉士養成教育の質に寄与することを目的とした。

### II. 方法

取り組み期間を事前に四段階設定（アセスメント・計画・映像作成・映像の具体的使用例を検討）とした。研究グループの打ち合わせは主にリモート会議とした。

### III. 結果

月に1回のリモート会議、数回のメール会議、対面では、キックオフミーティング（6月29日）、シナリオ作成ミーティング（10月28日）を行い、4事例とした。動画撮影（11月11日）では、60シーンの撮影を終えることができた。12月～1月には成果物の活用方法について、3回のリモート会議を実施した。

### IV. 考察

2022年度の研修モジュールに参画したメンバー研究協力者で、介護職員役、高齢者役を演じた。研修モジュールの反省点から、時間管理や、事例設定が重要だという共通認識を持つことが、研究推進の要となった。具体的には、事例の基礎情報から丁寧に検討し、フェイスシート・情報収集シートに事例の情報を書き込み、それぞれの情報をもとに、コミュニケーション、移動、排泄、入浴、食事、着脱、清潔、余暇支援、対人関係（他利用者、家族）、良いケア、悪いケア、好きな職員、嫌いな職員、ベテラン職員、新人職員について撮影シナリオを作成した。使用科目を基軸にした内容を発展させ、事例を点や線で撮影することで、科目を取って選定せず、汎用性が高く、利活用のしやすさを重視した。ペーパーシミュレーション事例ではなく、一人の生活者をイメージできる事例動画の作成に至った。特に生活場面の細かいシーンが60種類あることで、分割して使用することや、想定していなかった生活支援技術、介護総合演習、認知症の理解での展開が可能となると考えた。看護師教育においては、教務主任養成講習会ガイドラインが質の向上と平準化を目的に改正されている。一方、介護教員は、「学び直し」と「自己研鑽」の必要性を感じているものの更新研修は存在しない。そのため、本研究の意義は、介護教員の研鑽の場所となり、シラバスや教育に含むべき事項の再確認により、教育力のブラッシュアップの一助になり得たと捉えている。



今回撮影した動画の具体的な使用方法は検討途中である。目的であった利用者理解や、科目間連携を促すための学修プログラムに発展させていくことが直近の課題である。

## V. 結論

介護教育の質を担保するため介護教員の研鑽は欠かせない。意思を同じくしている教員が集まって行う共同研究の意義を再確認できた。

## VII. 成果

・学会発表：第 29 回日本介護福祉教育学会

・4 事例を作成した（一部を紹介）

疾患名	認知症（レビー小体型認知症）
生活歴	農家の 6 人兄弟の 5 男として生まれ、中学校卒業後地元の製材工場に勤め、20 歳の頃自動車製造販売会社へ転職。海外勤務も経験し定年まで務める。同僚の女性と結婚をし 1 男 1 女の 4 人家族で地方都市で暮らしていた。若いころの趣味はバイクや釣りであった。妻ともサイドカーでドライブに行っていた。長男は都市部に就職し、年に数回の面会。長女は結婚後は隣町に住んでおり、キーパーソンは長女である。
住まい（現在）	特別養護老人ホーム（ユニット型特養）
家族構成	妻と死別後、独居
参考とするもの	介護過程テキスト、生活支援技術テキスト、事例集
介護過程以外の活用のイメージ	認知症の理解・コミュニケーション・生活支援技術 介護総合演習 などの科目に使用可能
コミュニケーション	日常生活は簡単な意思疎通が可能 幻視があり、不穏な状態になると、職員との意思疎通が困難になることがある 幻視があるときに職員に訴え、対応してもらっている。しかし、日中に「職員には見えておらず、諦めてしまおう」と話しており、自分に合わせてくれていることをわかっているのではないと考えられる。
移動	移乗時は抱り立ちが可能、方向転換も声掛けにて行うことが可能。 車椅子は職員に押ししてもらっている。
排泄	日中はトイレにて排泄、食事前後や本人の希望時はナースコールがあり介助を行う 夜間はオムツを使用
入浴	入浴時リクライニングができるストレッチャーにてシャワー浴。洗身、洗髪は届く範囲は自分で行う。
食事	主食は全粥、副食は常菜。箸とスプーンを使用し自力で全量摂取
着脱	更衣は上衣はゆっくりであれば着脱できる。ベッド柵につかまり立ちして行う。 持っている服を理解しており、自分で「あれを着る」と選ぶ。
清潔	洗面はタオルを渡すことで自力で保清可能
余暇支援	野球観戦
対人関係（他利用者）	他入所者のみなさんとおしゃべりしたいと本人より希望がある。
対人関係（家族）	本人より頼みごとがあるとすぐに対応しており良好
良いケア	錯視による見間違いがないよう、普段から洋服や帽子を壁に掛けないことやカーテンなどをシンプルなものにするなど環境調整を行う
悪いケア	幻視が見えた際、そんなのいないよと伝える。
好きな職員	男性職員・若い女性職員・物腰が柔らかい職員
嫌いな職員	命令口調の女子職員
ベテラン職員の視点	幻視が見えた際、肯定で話を聞く。
新人職員の視点	幻視が見えている際に、内容をしっかり聞き、危害がない説明や、どう怖いのかを聞き、明かりを点けたり、場所を変える。

## VIII. 学会発表

### 1. 疾患理解を促す教材研究 —介護総合演習における利用者理解の統合化—

松田愛美（神奈川県立保健福祉大学）

・研究成果：疾患理解と利用者理解を促す生活場面の動画教材を使用することで、知識と技術を統合した具体的な介護実践の検討への期待ができる。特に、疾患に加え、利用者の性格や思い、望む生活を含めた利用者理解を深める一助となる。

・今後の課題：教材作成にとどまっているため、実際に教材として使用した際の学生の評価を検討し、より効果的な教材とすることや、パーキンソン病以外の疾患の教材研究を行う必要性。

### 2. 留学生を対象とした介護現場の理解 —仮想動画による効果的な学び—

松山美紀（国際医療福祉大学）

・研究成果：文化的背景が違う留学生に対して、動画視聴により、文化理解が促進され、利用者の生活の場や現場の具体的なイメージが獲得できる。

・今後の課題：介護現場に赴く前に具体的介護場面をイメージし、気づきを得て、有効活用できる動画となるように既存済み動画の洗練化

### 3. 科目横断型授業を目指した教育方法の検討

—認知症を題材にした汎用性のある教材作成を通して—

齊藤 美由紀（日本福祉教育専門学校）・高橋 由紀（北海道医療大学）

・研究成果：複数の科目に使用できる教材により、さまざまな科目の情報を統合することで、科目横断的な視点で学習を成り立たせることが可能となる。知識の統合化が促進され、学びへの意欲・楽しさなど更なる学習効果が期待できる。

・今後の課題：作成した動画（映像教材）も科目単位の活用に留まっているため、科目連携を意識したシナリオ作りや、展開できる演習の手引き作成の必要性。

## 令和6年度共同研究で現在行っている動画作成グループの進捗状況

### I. 目的

オンラインでの視聴が可能な動画教材を作成し、多くの訪日介護労働者のリアリティショックの未然防止に役立つものである。利用者理解を通して、日本での就労後に食事介助を円滑にできるよう、【日本の食文化】【日本の介護環境】【日本における食事介助の考え方】を整理するものである。

### II. 方法

取り組み期間を事前に四段階設定（アセスメント・計画・映像作成・映像の具体的使用例を検討）とした。研究グループの打ち合わせは主にリモート会議とする。

### III. 結果

数回のメール会議、対面では、キックオフミーティングとシナリオ作成ミーティング（6月29日～30日）を行った。またシナリオに関する打ち合わせ（8月24日～25日）を行った。動画撮影（1月10日～11日）を予定している。

## 総 括

1. 学習効果が高い四次元教材（動画、実物：食材・福祉用具・人間）
2. 介護福祉士養成が目指すもの「職業教育」
3. 時間不足・力量不足を“参集”“結束”し、研鑽する仲間づくり
4. 教員の“情熱”“使命感”満足感や達成感がもたらす“役立つ”授業づくり
5. 教材づくりの手法の開発や、教材づくりのエビデンスの構築
6. 教員相互の知的財産の共有